



北方領土返還要求運動
シンボルマーク

北方領土返還要求運動 奈良県民会議
第29回

奈良県民大会



2012年 知床半島より国後島を撮影

とき 平成26年8月28日(木) 13:00~16:20

ところ なら100年会館 中ホール

主催 北方領土返還要求運動奈良県民会議

共催 (独)北方領土問題対策協会

後援 外務省 内閣府北方対策本部

お問い合わせ

北方領土返還要求運動 奈良県民会議事務局 (奈良県広報広聴課内)

☎0742-27-8325 <http://www.hoppou-nara.org/>



北方領土問題政府 広報キャラクター
エトピリカの女の子 エリカちゃん

次第

開 会

主催者挨拶

北方領土返還要求運動
奈良県民会議 会長

新 谷 紘 一

来賓挨拶

奈良県副知事

奥 田 喜 則 様

奈良県議会議長

山 下 力 様

大会決議

北方領土返還要求運動
奈良県民会議 副会長

西 本 安 博

映画上映

「ジ ョ バ ン ニ の 島」

講 話

千島連盟援護問題等専門委員
色丹島出身

得 能 宏 氏

お楽しみ抽選会

閉 会

内閣府メッセージ

北方領土返還要求運動奈良県民大会の開催に当たり、御挨拶を申し上げます。

まず始めに、本大会に御出席の皆様方におかれましては、我が国固有の領土である北方領土返還実現のため、日頃より返還要求運動の推進に多大な御尽力を賜り、心から感謝申し上げます。

私は、昨年9月、北方四島交流事業の訪問団の一員として国後島及び択捉島を訪問し、現地の方々との交流や意見交換を行い、北方四島の帰属の問題を解決して平和条約を締結し、両国間に真の相互理解に基づく安定した関係を確立することが重要であるとの我が国の立場を改めて伝えてまいりました。また、現地の日本人墓地を訪れ、元島民の方々がお墓にお線香を上げ、手を合わせている姿を見るにつけ、一日も早く北方領土返還を実現しなければならないという決意を強くいたしました。

北方領土の日である2月7日には、元島民や返還要求運動関係者にも御出席いただき、平成26年北方領土返還要求全国大会を開催いたしました。私からは、若い世代に対する広報啓発を始め、全国的な返還要求運動の推進に全力で取り組むことを改めてお約束したところです。

安倍内閣総理大臣からも北方領土問題の解決に向けた強い決意が表明されております。安倍内閣発足から、これまで5回の日露首脳会談を開催し、平和条約締結交渉を加速化させることが合意され、返還交渉の進展が期待されております。ロシアのクリミア併合などのウクライナ情勢により予断を許さないものの、私としては、このような情勢下にあっても、より一層の国民世論啓発の強化を図り、返還に向けた環境整備に積極的に取り組み、外交交渉を強力に後押ししてまいりたいと考えております。

昨年実施した特別世論調査の結果にも表れているように、次代を担う若い世代に対し、北方領土問題の正しい理解と関心を高めることが重要であり、内閣府としては、平成26年度予算において、若者が北方領土隣接地域への視察等を通じ、様々な形で領土問題を発信してもらう内容のプログラムを盛り込むなど、若い世代を対象にした啓発や教育機会の拡充に努めております。

併せて、北方領土教育の重要性が高まりつつある現状に鑑み、北方領土問題に関する研修への参加や学習教材集の活用について、文部科学省と協力し、各都道府県教育委員会や全国の小中学校の校長で組織される校長会、社会科教育の充実を目指す教員の全国的な研究組織に対して直接働きかけを行っているところです。

さらに、親しみやすく、分かりやすい運動の展開として、「エリカちゃん」を活用した動画の配信など、ソーシャル・ネットワーキング・サービスの活用などにも、引き続き、きめ細やかに取り組んでまいります。

本大会御出席の皆様方におかれましては、今後とも、北方領土の早期返還実現のため、返還要求運動に御尽力を賜りますよう心からお願い申し上げますとともに、返還要求運動が更に大きく発展することを祈念いたしまして、御挨拶といたします。

平成26年8月28日

内閣府特命担当大臣（沖縄及び北方対策）
北方対策本部長 山本 一太

カンタ、日本に帰ろう



50. 一般社団法人日本音楽事業者協会 創立50周年記念作品

ジヨバジニの島

市村正雅 仲間由紀恵 柳原可奈子 ユー・エヌ・サンクス・リブ

横山幸太 谷合純矢 ホリー・ナバウ・エンジェル

北条三郎

大塚弘 八千草薫 仲代達矢

企画・制作 一般社団法人日本音楽事業者協会 制作・監修 市村正雅 脚本 藤村敏行 演出 佐々木康 音楽 市村正雅 ユー・エヌ・サンクス・リブ
キャラクター設定・作画監修 伊藤典雄 絵巻制作 池田信子 美術監修 荒川和雄 美術制作 佐藤隆 小笠原正 監製 市川晋也 監製 市川晋也
CG監修 井村浩二 制作監修 中田博行 ピクチャ・リズミック・エクスプレス 演出 佐々木康 監製 市川晋也 監製 市川晋也
アニメーション制作 株式会社スタジオ・ジブリ

www.giovannimovie.com

— 美話をもとにした“忘れてはいけない”物語 —



映画『ジョバンニの島』

解 説

私たちのこの国で、そんな衝撃的な出来事が実際に起きたのは、第2次世界大戦終結直後のことでした。

北方四島のひとつ色丹島にソ連軍が進駐し、島民から自由と平和を奪ったのです。どんなに時代が変わっても決して忘れてはならないことを、今を生きる大人たち、そして未来を生きる子どもたちに伝えたい——そんな思いから、日本音楽事業者協会創立50周年の節目に、アニメーション映画『ジョバンニの島』が生まれました。

物 語

1945年、自然豊かな色丹島。父や祖父と楽しく暮らす、10歳の純平と7歳になる弟の寛太。しかし——敗戦と共に穏やかな日々は終わりを告げる。ソ連軍が島を占拠し、島の人々の住み家は奪われる。それでも次第に心を開き合う、両国の子供たち。

そして純平は、あるロシア人少女・ターニャに淡い恋心を抱く。だが、島の防衛隊長である父はシベリアの収容所に送られ、兄弟は極寒の地、樺太へ——。寒さと飢えに苦しみながらも、兄弟は父との再会を思い続ける。



講 話

とくのう
得 能

ひろし
宏 氏



【プロフィール】

生 年 月 日

昭和9年2月14日

色丹島斜古丹村生まれ [79歳]

昭和22年秋 色丹島を強制送還 [樺太一函館][根室市在住]

公 職

昭和46年 根室漁業協同組合理事就任 [平成10年3月退任]

昭和54年 千島歯舞諸島居住者連盟理事就任 [平成12年退任]

昭和62年 北方地域漁業権補償推進委員会理事就任 [現任]

平成3年 千島連盟援護問題等専門委員就任 [現任]

平成7年 千島連盟根室支部支部長就任 [平成12年退任]

職 歴

漁業

水産物製造販売業自営 [現在]

現 在

千島歯舞諸島居住者連盟の「北方領土語り部」として北対協・北方同盟・根室市主催の現地研修会や全国各地に赴いて在島時の生活や色丹島の様子、根室へ引き揚げてからの生活等について、青少年をはじめ多くの方々に講演活動をしている。

映画『ジョバンニの島』の主人公である純平は、得能氏がモデルである。

大会決議(案)

本日、我々は、択捉島、国後島、色丹島及び歯舞群島からなる北方四島の早期返還をめざすため、第29回目の北方領土返還要求運動奈良県民大会を開催した。

北方四島は、歴史的にも、国際法上からもわが国固有の領土であり、これらの早期返還の実現は、日本国民にとって長年の悲願である。

これまで我々は県民世論に支えられながら、北方四島の返還要求運動を展開してきたが、戦後69年を経た今日もなお、ロシアによる不法占拠の状態が続いていることは誠に残念である。

本年2月にはロシアにおいて日露首脳会談が行われ、「引き続き議論を重ね、解決に向けてしっかり議論していく」ことで一致を見たところであり、今後、北方領土問題解決への進展が大いに期待される。

北方領土問題は日露間に残された最大の懸案事項という認識のもと、政府はこの問題の解決を次の世代に先送りすることなく、強い意思をもって交渉を続ける必要がある。

我々も、北方領土の一日も早い返還実現のため、長年にわたり啓発活動や世論高揚のための運動を推進してきたが、改めて、北方領土返還への県民の声を一層結集させ、今後もねばり強く運動を推進していくことをここに決議する。

平成26年8月28日

北方領土返還要求運動奈良県民会議



MEMO 續能表の 追加の島 秋の旅行

・ 既部隊 約3,000名の色丹山に → 食料(米)と村に残して置く
村人は食料を喰わなかった。

以才の時 = 持本人 終戦時村中:

- ・ 子供同志は確然慕って思っていた。
- ・ 元島民、最近若くして68年 AU 20才に達した。
- ・ 8年前 USAへ移住した。当時の米の日本全体の管理を何故行なうのか!
- ・ 北方の工場建設の出来は十分だ。
- ・ QP. (1977映画の記録資料。)
- ・ 島民の問題は無く北方回帰の日本全体の問題がある。
- ・ 戦後70年に来ると。同じ50年代の子供たちを思ふ。

北方領土問題とは…

北方領土は、北海道本島の北東洋上に位置する、歯舞群島、色丹島、国後島及び択捉島の四島です。

北方領土は、日本がロシアより早くその存在を知り、多くの日本人がこの地域に渡航し、生活をし、父祖伝来の地として受け継いできたものです。

今から150年以上前の1855年2月7日、日本とロシアは日魯通好条約により、当時自然に成立していた択捉島とウルップ島の間をそのまま両国の国境とすることを確認しました。それ以降も北方四島が外国の領土となったことはありません。

しかし、1945年8月9日、ソ連は、当時まだ有効であった日ソ中立条約に違反して対日参戦し、日本がポツダム宣言を受諾した後の同年8月28日から9月5日までの間に北方四島のすべてを占領しました。

そして、ソ連は1946年に四島を一方向的に自国領に「編入」し、1949年までに当時四島全体に約1万7千人住んでいたすべての日本人を強制退去させました。

それ以降、今日に至るまでソ連、ロシアによる法的根拠のない占拠が続いており、北方領土問題が存在するため、日露間では、いまだ平和条約が締結されていません。

北方領土の位置と面積

面積の比較

3,182km²



1,498km²



1,208km²



854km²



712km²

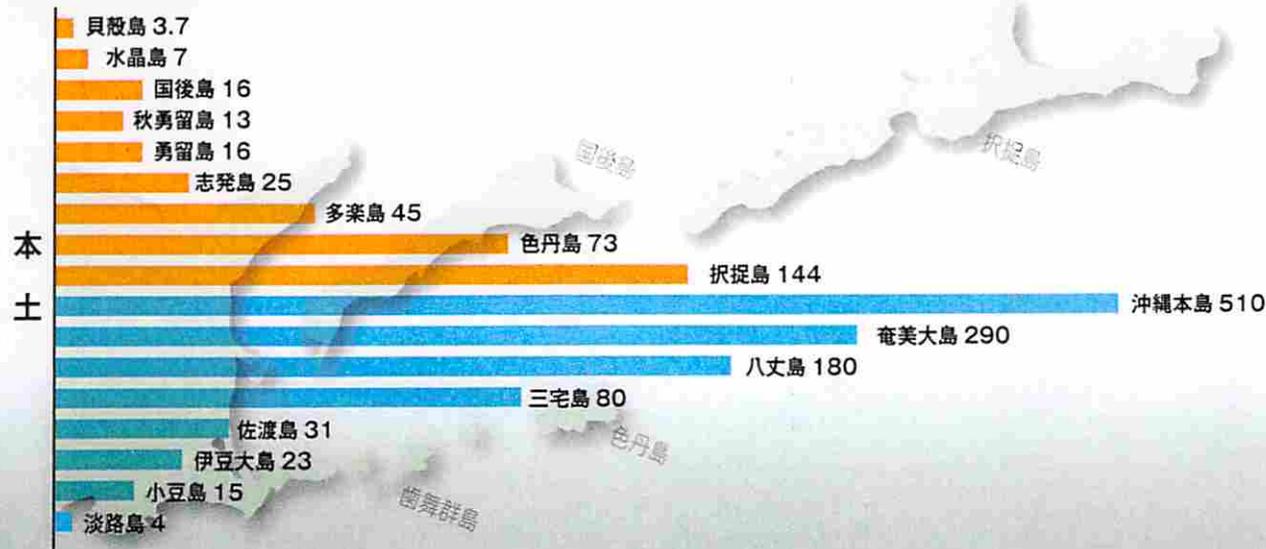


592km²



注)「平成24年全国都道府県市区町村別面積調」(国土地理院)などによる。

本土からの距離の比較(単位:km)



北方領土問題の経緯

日本領 (茶色) 日本・ロシア混住地 (黄緑) ロシア/ソ連領 (黄色) 帰属未定 (白)



1855年 日魯通好条約

1855年(安政元年)2月7日、現在の静岡県下田市において締結され、下田条約とも呼ばれています。この条約で両国の国境は、択捉島とウルップ島の間に決められ、択捉島、国後島、色丹島、歯舞群島は日本の領土とし、ウルップ島から北の千島列島は、ロシア領として確定されました。また、樺太は両国民の混住の地と決められました。



1875年 樺太千島交換条約

1875年(明治8年)、日本は、千島列島をロシアから譲り受けるかわりに、樺太全島を放棄しました。この条約では、日本に譲渡される千島列島の島名を一つ一つあげていますが、列挙されている島は、ウルップ島より以北の18の島で、択捉島、国後島、色丹島、歯舞群島の北方領土は含まれていません。



1905年 ポーツマス条約

1905年(明治38年)、日露戦争の結果、北緯50度以南の南樺太が日本の領土となりました。

以上の経緯を見て分かるように、北方四島は、いまだかつて一度も外国の領土となったことがない我が国固有の領土であり、ロシア(ソ連)による北方四島の占拠は、法的な根拠なく行われているのです。

ソ連軍は、日本がポツダム宣言を受諾した後の8月18日より千島列島への攻撃を開始し、ウルップ島まで侵攻しましたが、そこから北に引き返しました。しかし、択捉島以南にアメリカ軍が進駐していないと知り、別の部隊が同28日択捉島、9月1日から4日の間に国後島、色丹島及び歯舞群島をそれぞれ武装解除し、遅くとも9月5日までに千島列島のみならず北方四島をも占領したとされています。



択捉島にはソ連軍はここから上陸した。(択捉島留別村)



1951年 サン・フランシスコ平和条約

1951年(昭和26年)、日本は、千島列島と南樺太の権利、権原及び請求権を放棄しました。しかし、放棄した千島列島には択捉島、国後島、色丹島、歯舞群島の北方領土は含まれていません。なお、この条約では放棄した地域が最終的にどこに帰属するかについては、なにも決められていません。

